運命☆クエスト

椎名　瑞夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
運命☆クエスト

【Ｎコード】
Ｎ５７４３Ｉ

【作者名】
椎名　瑞夏

【あらすじ】
運命シリーズのメンバーが、もしもＲＰＧになったら・・・？
『運命なんか、始まらない』のちょっと変わった番外編です。

早桜（さくら）・・・戦士（ファイター）
綾（あや）・・・僧侶（クレリック）
夏己（なつき）・・・盗賊（シーフ）
恵ちゃん（けい）・・・魔法使い（ウィッチ）

「ダンジョンって寒いねー」
恵ちゃんが呪文『寒いね』を唱えた。
しかし、今周りに敵（モンスター）はいない。
「大丈夫かよ?オレので良かったら、上着貸すよ」
夏己が呪文に掛かった。
恵ちゃんは『夏己の上着』を手に入れた。
夏己は寒そうだ。
「恵ちゃんって、天然悪女だよね」
「魔女だからいいんじゃないの?」
二人の会話は、微妙に噛み合っていない。
早桜と綾の信頼度は２０下がった。
目の前に扉が現れた。
「あれ、開かないや」
扉には、鍵が掛かっているようだ。
「よし任せろ!オレは盗賊だからな!」
夏己は張り切った。

「〇オ」
チュドーン。
恵ちゃんの呪文『イ〇』が発動する。
扉は吹っ飛んだ。
「オレの見せ場・・・」
夏己の面目は丸つぶれだ。
「さあ、じゃんじゃん進もう！」
「そだねー」
「すっげぇ破壊力だな。〇オなのに」
特に仲間からのフォローは無かった。
夏己は『世間は冷たい』のスキルを得た。
ちなみに、このスキルは何の役にも立たない。

扉の奥には、小さな部屋が広がっていた。
中央には、ブロンズの女神が凛とした態度で立っているが、他には何も無いようだ。
いかにも怪しい雰囲気に、一同は入るのをためら・・・
「見てみて～。なんか像がある！」
「行こ行こ」
うことはないようだ。
「ちょ・・・ここはまず盗賊のオレだろー？」
夏己はめげない。
一人つかつかと像に歩み寄ると、夏己は女神のルビーがはめ込まれた瞳に触れた。
ポチッ。
嫌な音がして、瞳がへこんだ。
『妾に容易く触れる無礼者はどいつじゃ・・・？』
迫力のある声が響き渡る。
四人の血の気は引いた。
「あ、あの・・・悪気は無くて・・・」

早桜が説得を試みた。
『うつけ者ぉっ！八つ裂きにしてくれるわ！』
話は通じなかった。
ギー、と女神が振り返った。
「う・・・」
突然、早桜が呻いた。
「どうした！？」
「あの女神・・・超ボイン・・・」
確かに女神は巨乳だった。
『ふわーっはっは！どうじゃ、この三坂（みさか）の胸には敵わんじゃろう！』
女神の名前は三坂だった。
三坂は豊満な胸を反って高笑いを始めた。
どうやら、早桜のストレート（？）な褒め言葉に気分を良くした様だ。
「な、なんかよく分からないけど今なら逃げれるんじゃないかな・・・」
胸を押さえて軽く落ち込んだまま、早桜が呟いた。
戦士のくせに、戦う気はさらさらないらしい。
「そうだな、逃げよう」
綾は身をかがめて、扉に向かった。
三坂は気づいていないようだ。
「いひやぁあああっ！！！」
何故か、突如恵ちゃんがパニック状態になった。
『な・・・！？』
「イ○！○オ！ていうか、イ○ラ～っ！！！」
恵ちゃんは『イ○』と『イオ○』を唱えた。
ドカーンッ。
『ぎゃあああああっ！』
三坂は爆発した。
「け、恵ちゃんが三坂さんを倒しちゃった・・・」

～♪
恵ちゃんはレベルアップした。
恵ちゃんは『○オラ』を覚えた。
恵ちゃんは特技『パニック強化』を身につけた。
恵ちゃんは・・・
「うわあああんっ。イオ○！ってかイオ○ズン！！！」
恵ちゃんのパニック強化はまだ解けていないようだ。
ドッッッカーン！
『イオナ○ン』が発動した。
天井にひびが入った。
ダンジョンは早くも崩れそうだ。
「崩れる！？どうしよう！ちょっと、綾！」
早桜は、綾に助けを求めた。
「助けてください僧侶様、は？」
綾はＳだった。
「○オ！イ○ラ！イオナズ○！」
「恵ちゃん～っ！夏己も恵ちゃんを止めてよーっ」
「・・・オレのいい所がまたしても恵に奪われた・・・」
夏己の魂は抜けている。
天井の岩が崩れ落ち始めた。
「ぎゃああ！生き埋めになるーっ！？」
早桜はピンチだ。
「おいおい、やばいんじゃないの？さっさとずらかろうぜ」
やっと綾がまともになったようだ。
早桜は心強い味方を得た。
「綾！夏己を運んでくれない？」
早桜は必殺『上目遣い』を使った。
「・・・はいはい」
綾は逆らえなかった。
「ほら、恵ちゃん。早く立ってよぉ！・・・って、えええ！？」

早桜は驚愕した。
夏己は勢いよく宙を舞っている。
「これでよし、と」
綾は満足そうに頷いた。
多分あまりよくはない。
ズシャアアア。
夏己は地面に顔面ダイブした。
「夏己ぃぃぃ！？」
早桜は夏己に駆け寄った。
「さ、早桜・・・」
二人は、感動の再会を果たした。
夏己は鼻血を盛大に吹いている。
「良かった。怪我は無いみたいだね」
早桜は鼻血を見なかったことにした。
信頼度が５０上がった。
早桜と夏己の信頼関係はランクアップした。
『十年来の幼馴染』
↓『戦火を共に潜り抜けた戦友』
「夏己・・・ぐえっ」
早桜は首根っこを掴まれた。
「死にたいのかよ。ほら、出るぞ」
綾は不機嫌マックスのようだ。
「待てよ！早桜よりも恵を引っ張っていけよ！恵は今パニック状態なんだぞ？」
夏己はかっこいい言葉を唱えた。
しかし、鼻血は止まらない。
早桜と綾は気の毒そうな顔をした。
「な、なんだよ。ちくしょーめ！もういい、オレが恵を連れて行く！」
夏己は鼻血に気づいていない。

夏己のかっこよさが１００下がった。
「・・・可哀想だから、黙っててあげようね」
「そうだな・・・」
二人の心は通じ合った。
ちなみに心の中では、双方腹を抱えて大笑いしている。
「恵！大丈夫か？」
夏己は、今までに無いかっこよさで恵ちゃんに話しかけた。
「ぶっ。あはははひゃ！夏己君変な顔！鼻血ブー太郎だ！」
恵ちゃんは早桜と綾の気遣いを踏みにじった。
「っぷ。あはははは！もう駄目～」
「はははは！ぶはっ！」
二人とも限界のようだった。
「なっ！お前ら！？」
一人夏己はまともぶった。
しかし、依然鼻血は吹き出したままだ。
かっこ悪いにも程がある。
「あー、笑った笑った」
「夏己君たら、お茶目なんだから。・・・そういえば、あたし『イ○ナズン』も覚えたみた・・・」
ドッッッカーン！
再度、『○オナズン』が発動した。
「きゃーっ！恵ちゃんのばかーっ」
ダンジョンは崩れた。

「僧侶、夏己の怪我治してやってよ」
「無理。鼻血くらいは止められるけど」
綾はあっさり断った。
「夏己君～。起きてよー」

恵ちゃんは呼びかけた。
「・・・」
返事は無い。
ただの屍のようだ。
「って、こら！ナレーター！勝手に夏己を屍扱いしないでよ」
なんと、早桜はナレーターにつっこんできた。
つっこまれたからには、謝ろう。
すみませんでした。
そんなこんなで、今日も４人は平和なのでした。
チャンチャン。

「・・・なんかオレだけ不幸じゃねぇ？」
そんなことはありません。

（後書き）

こんにちは。
椎名です。
今回は、番外編を書いてみました。
気づいた人にとってはパロ。
気づかなかった人にとっては、あくまでオリジナルで通したいと思います（なんのこっちゃ）。

作品について。
早桜ちゃん、戦士を活用してませんね、全然。
思えば、恵ちゃん以外誰も戦っていないような・・・。
ま。
いいんですよ！
これが運命シリーズなんです！（？？？）

次は、連載のほうを更新したいと思いますので、どうぞ温かい目でお待ちください。
ちなみにこのＲＰＧ風運命シリーズ、好評でしたら第二弾も書きたいなー、と思っております。
それでは、また。

瑞夏

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5743i/

運命☆クエスト

2010年10月12日02時03分発行